

- 促進区域指定ガイドラインを目安として、海底地盤状況を確認するため、以下の調査を実施した。

区分	調査項目	取得データ	測定頻度等	備考
海底地形	深淺測量	海底形状(水深)、海底人工物の有無	測線間隔 約2km	1素子
海底地層	音波探査	海底面下の地層構造	測線間隔 約2km	
海底地質	コーン貫入試験	海底面下の土質性状(先端抵抗等)	1本(海底面下 約60mまで)	
海底地質	PS検層	海底面下の土質性状(S波速度)	1本(海底面下 約60mまで)	

- 調査によって確認された海底地盤の状況は以下のとおり。
 - ① 区域内の水深は、20m未満が約14%、30m未満が約39%、40m未満が約74%、50m未満が約99%であり、区域内の最も深い箇所の水深は、約52mであった。
 - ② 区域内の中央および南側に、海底面付近から音響的基盤（岩盤または硬質な堆積層）が確認されたエリアがあった。
 - ③ コーン貫入試験調査地点における堆積土の性状は、海底面から約7mは比較的緩い砂質土である。その下は砂質土層・粘性土が続き、約42mから固結度の高い粘性土の地層となる。
- (まとめ) 調査の結果、有望な区域の海底地盤において、洋上風力発電を実施する上で特に不適當と確認される点はなかった。

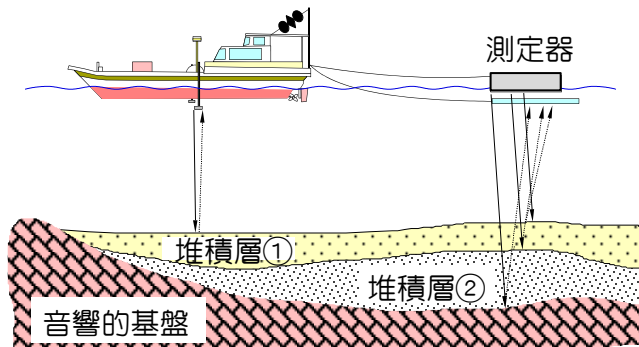


図1 音波探査概念図

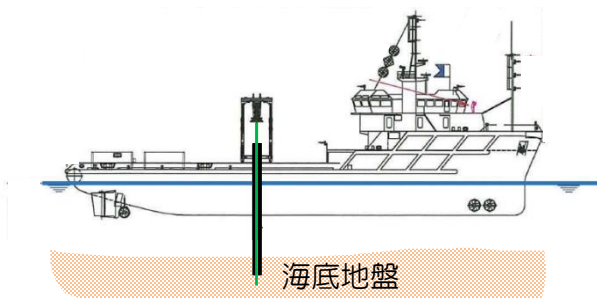


図2 コーン貫入試験概念図



写真1 調査船（コーン貫入試験、PS検層に使用）